

教科（科目）	地理歴史（日本史探究）	単位数	4	学年（系）	5学年（文系）
使用教科書	詳説日本史（山川出版社）				
副教材等	最新日本史図表五訂版（第一学習社） ウィニングコンパス日本史の整理と演習2024（とうほう） 詳説日本史10分間テスト改訂版（山川出版社）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①幅広い教養を身につけ、他者と協働しながら、粘り強く挑戦し続け、地域社会や国際社会に貢献する意欲や資質・能力を備えた人材を育成します。 ②主体的、自律的な人間として、行動力にあふれ、自他を大切にする思いやりの心とリーダーシップを兼ね備えた人材を育成します。 ③主体的に学ぶ力を身に付け、社会における課題等に気づき、創意工夫、試行錯誤を重ね、その解決のために行動できる人材を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、発達段階に応じて1・2年を「基礎の充実」、3・4年を「発展・挑戦」、5・6年を「自律・深化」に分け、学習内容の確かな定着、主体的で対話的な学習態度の育成を図りながら次の教育活動を展開します～ ①総合的な応用力、学問への探究心を育むとともに、知識や技能を活用するための思考力、判断力、表現力を育成する課題解決型の授業を実施します。 ②他者とコミュニケーションを取りながら、地域社会や我が国の魅力を国内外に発信できる知識・技能等を高めるための学習活動を実施します。 ③身に付けた力を社会で発揮するため、地域貢献活動、社会体験活動への参加を推進します。 ④自己肯定感を高め、他者を思いやり、多様性を理解する態度等を育成するため、系統的な特別活動や学年を超えた多様な体験活動を実施します。

2 学習目標

- ①近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ②近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ③近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

3 指導の重点

- ・我が国の歴史が世界の一つとして成り立ち、伝統や文化について深く理解させる。
- ・我が国の歴史にまつわる事象について考えをめぐらせ、伝統や文化、年代といった幅広い分野から現代とのつながりを考える能力を身に付けさせ、過去の歴史から課題を見つけて構想を練る力を身に付けさせる。
- ・調べた内容を第三者に分かりやすく説明する、議論を交わすといった力を育み、我が国の歴史の展開について世界史的視野に立って各時代の特色及び変遷を総合的に考察させ、発表や学びあいなどの活動を通じて、我が国の伝統と文化についての認識を深めさせる。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	近現代の歴史に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組み、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。また、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解し、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめたりしている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、表現している。	近現代の歴史に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組み、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。
評価方法	定期考査、小テスト、提出課題、発表の様子など	定期考査、小テスト、提出課題、発表の様子、レポートなど	提出課題、発表の様子、レポートなど

6 指導計画

月	単元名	授業時数	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	日本文化のあけぼの 古墳とヤマト政権	12	・人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ・ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。	12	小テスト、ワークシート、発表の様子など
5	律令国家の形成 貴族政治の展開	14	・律令にもとづく国内統治体制について理解する。 ・摂関政治の在り方と文化の展開に、どのような関係があるかを考察する。	14	小テスト、ワークシート、発表の様子など
6	院政と武士の躍進 武家政権の成立	14	・院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ・鎌倉幕府の成立時期をめぐる諸説に関して、それぞれの根拠を明確にして考察する。	14	小テスト、ワークシート、発表の様子、中間考査など
7	武家社会の成長	13	・庶民文化の萌芽や、応仁の乱を契機とした文	13	小テスト、ワー

			化の地方伝播、戦国大名の保護による文化の地方普及を理解する。 ・庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。		クシート、発表の様子など
9	近世の幕開け	13	・織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。 ・新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。	13	小テスト、ワークシート、発表の様子、期末考査など
10	幕藩体制の成立と発展	15	・江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。 ・17世紀後半から18世紀前半までの江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察する。	15	小テスト、ワークシート、発表の様子など
11	幕藩体制の動揺 近世から近代へ	14	・欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を理解する。 ・国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、日本の開国を社会・経済面での変化と関わらせて考察する。	14	小テスト、ワークシート、発表の様子、中間考査など
12	近代国家の成立 近代国家の展開	14	・明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、政治的変革と国家的統一過程を理解する。 ・政府の強力な中央集権体制への志向のもとで、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。	14	小テスト、ワークシート、発表の様子など
1	近代産業と生活	14	・日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して理解する。 ・伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性をもって成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって考察する。	14	小テスト、ワークシート、発表の様子など
2	恐慌と第二次世界大戦 占領下の日本	13	・戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況と対策に着目して理解する。 ・戦後政治の動きを踏まえて、集大成となる日本国憲法制定の意義を考察する。	13	小テスト、ワークシート、発表の様子、期末考査など
3	高度成長の時代	10	・独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める55年体制の成立	10	レポート、小テスト、ワークシ

	激動する世界と日本	から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。 ・高度成長が終焉し、保守政権が動揺する中、2度にわたる石油危機を乗り越え、経済大国としての道を歩み始めた日本の状況を多面的・多角的に考察する。		一ト、発表の様子など
--	-----------	---	--	------------

計146時間（48分授業）

7 課題・提出物等

問題集、週末課題、レポート

8 担当者からの一言

日本史探究では、4年次の『歴史総合』で学んだことを「土台」にして、自分なりの問いを立て、自分なりに情報収集・分析し、自分なりにまとめ発表するというステップを踏みながら、探究活動を進めていくことを目指します。楽しみながら、6年次のさらなる学びへとつないでいきましょう。